

資料6

南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会 について

静岡市

2026年8月31日

南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会

1. 目的

南アルプスの自然環境が抱える課題を踏まえ、南アルプスのネイチャーポジティブ(自然再興)に貢献する取組を社会の協働で着実かつ継続的に実施する体制を構築するため、「南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会」を設置する。

2. 組織体制

静岡市、川根本町、静岡県、JR東海、十山株式会社、一般財団法人南アルプスみらい財団(事務局)

3. 実施内容

ネイチャーポジティブ実行計画に基づき下記の取組を実施する。

・高山植物の保全

希少種を含む高山植物をシカの食害から保全するために、防鹿柵の設置範囲の拡大を行う。

・ヤマトイワナの保全

ヤマトイワナの生息数、生息地が減少しているため、ヤマトイワナの生息範囲の確定と、交雑防止等の保全措置を行う。(※)

※静岡市はヤマトイワナの保全に関する条例制定に向け、パブリックコメントを行い、第2回環境審議会(2026年8月24日)において答申があった。(資料7で説明)

・JR東海の委託に基づくネイチャーポジティブ貢献措置の実施

・ネイチャーポジティブについての調査研究、普及、啓発及び社会参加の拡大のための基盤整備等

4. 財源

静岡市が管理する「南アルプスユネスコエコパーク保全活用基金」を財源とする。JR東海からの委託に基づく取り組みについては、JR東海が基金に拠出したものを活用して実施する。

1 会議

- (1) 南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会（2回/年）
- (2) 南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会幹事会（2回/年）

2 事業

- (1) 南アルプスネイチャーポジティブ実行計画の策定

(概要)

南アルプスの自然環境が抱える課題を踏まえ、南アルプスユネスコエコパークの理念に基づき、ネイチャーポジティブに貢献する取組を社会の協働で持続的に実施するための計画を策定する。

(期間)

2026年7月から2027年3月まで

- (2) 南アルプス高山植物保全対策プロジェクト（植生保護柵検討部会）の設置

(概要)

植生保護柵検討部会を設置し、保護柵の耐久性・利便性向上や、コスト低減化のための検討を行う。

(時期)

2026年8月から2027年3月まで

南アルプスネイチャーポジティブ実行計画の骨子

1. 計画を策定する背景

南アルプスでは、ニホンジカの食害による高山植物種への影響や、ニッコウイワナの放流によりヤマトイワナの交雑が進行するなど、貴重な自然環境の損失が進行している。

また、リニア中央新幹線建設工事による生物多様性の損失が懸念されており、社会の協働で、損失を上回るようなネイチャーポジティブ(自然再興)に貢献する取組を行っていくことが必要である。

2. 目的

南アルプスの自然環境が抱える課題を踏まえ、南アルプスユネスコエコパークの理念に基づき、ネイチャーポジティブに貢献する取組を社会の協働で持続的に実施する。

3. 計画期間

2027年度から10年間

4. 計画の基本方針

社会の共感を得て、ネイチャーポジティブに貢献する取組のさらなる活性化を図る。

5. 主な取組

(1) 高山植物の保全(防鹿柵の設置等)

(2) ヤマトイワナの保全(交雑防止の保全措置等)

(3) JR東海の委託に基づくネイチャーポジティブ貢献措置の実施

(4) ネイチャーポジティブについての調査研究、普及、啓発及び社会参加の拡大のための基盤整備等

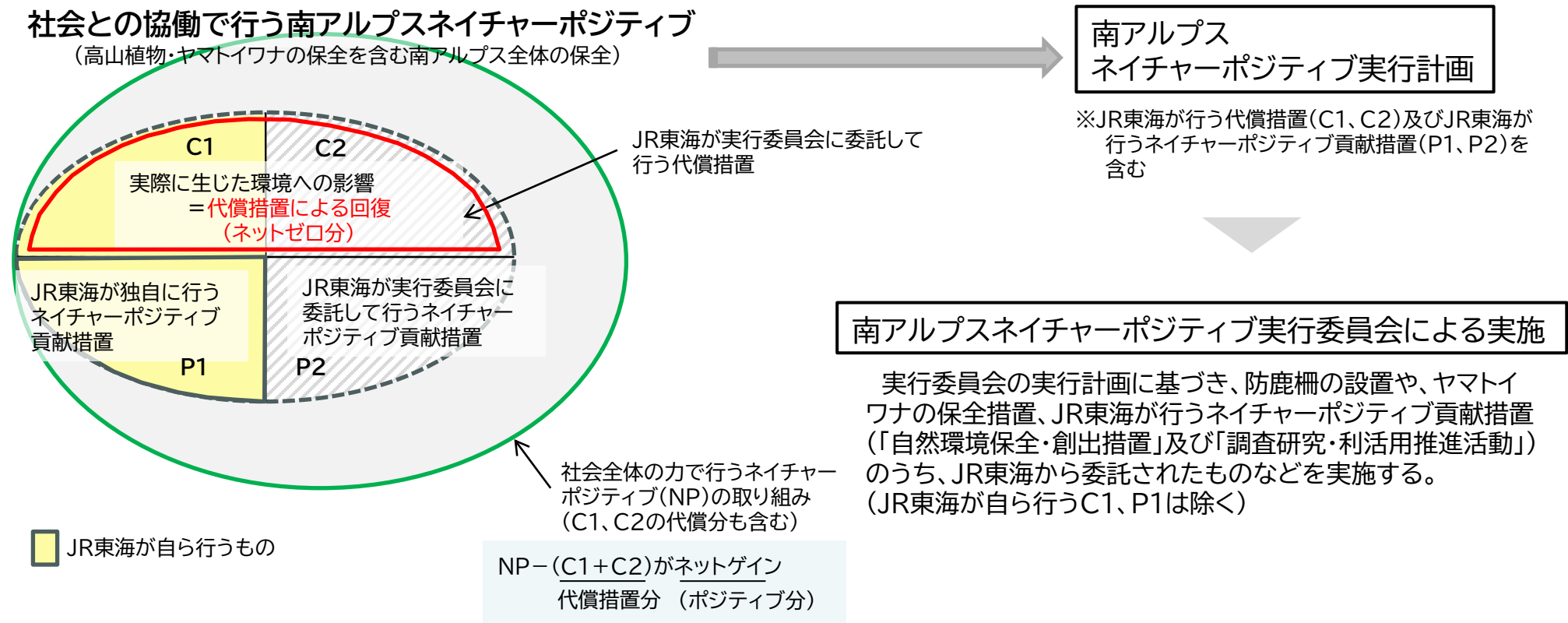
※次ページ「南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会の計画策定と事業実施範囲の考え方」参照

6. その他

計画策定後も順応的に見直しを行う。

(参考)南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会の計画策定と事業実施範囲の考え方

南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会は、南アルプスユネスコエコパークの理念に基づき、ネイチャーポジティブの実現に向けた「南アルプスネイチャーポジティブ実行計画」を策定する。



南アルプス高山植物保全対策プロジェクト(案)

1 概要

希少種を含む高山植物のシカの食害は深刻化が進み、その保全は、南アルプスネイチャーポジティブ実行計画の中で、先行して取り組むべきという共通認識がある。

南アルプスの高山植物の保全を図るため、先端技術の植生保護柵の設置やシカの生態を踏まえた管理手法、表土流出対策を一体的に検討することで、効果的な保全策を実現する「南アルプス高山植物保全対策プロジェクト」を設置し、南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会において実施する。

2 構成

植生保護柵検討部会	シカ管理手法検討部会	表土流出対策検討部会
〈検討事項〉 ・保護柵改良 耐雪型構造、可動式柵、新素材導入、電気柵活用 ・省力化 資材運搬改善、補修効率化、維持管理コスト低減 〈スケジュール〉 ・第1回南アルプスネイチャーポジティブ実行委員会（2026年7月24日）で承認を得たため、2026年度に部会を設置する。 ・検討結果を踏まえ、2027年度以降に改良された柵を設置する。	〈検討事項〉 ・実態把握 生息密度調査、季節移動把握、植生分析、効率的捕獲手法 ・新技術開発 ドローン、熱画像調査、衛星通信活用、処理手法開発 ・実証事業 効率的捕獲、処理技術、搬出技術 〈スケジュール〉 ・実行委員会の承認を得て2027年度に部会を設置する。	〈検討事項〉 ・近自然工法 浸食防止、斜面安定化 ・緑化技術 裸地回復、植生再生 ・維持管理 山岳地で継続可能な工法 〈スケジュール〉 ・実行委員会の承認を得て2027年度に部会を設置する。

※各部会のメンバーは、有識者等で構成。